

第47回 苫小牧市地域協議会次第

・日 時:平成30年8月22日(水) 18:30~

・場 所:リサイクルプラザ苫小牧

1 開 会

2 あいさつ

北海道総合政策部交通企画監 黒田 敏之

苫小牧市副市長 佐々木昭彦

3 議 題

- (1) 住宅防音対策の進捗状況等について
- (2) 地域振興対策の進捗状況等について
- (3) 新千歳空港周辺地域振興基金について
- (4) 平成29年度航空機騒音測定結果について
- (5) (公財)新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備について
- (6) 新千歳空港における最近の動向について
- (7) その他

4 閉 会

<配付資料>

- | | |
|-------|---|
| 資料1 | 住宅防音対策の進捗状況等について |
| 資料2 | 地域振興対策の進捗状況等について |
| 資料3 | 新千歳空港周辺地域振興基金について |
| 資料4 | 平成29年度航空機騒音測定結果について |
| 資料5-1 | (公財)新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備について |
| 資料5-2 | 新千歳空港の24時間運用に伴う地域振興等対策の基金による助成事業に関する確認事項(案)について |
| 資料6-1 | 新千歳空港における最近の動向について |
| 資料6-2 | 道内空港運営の民間委託について |

住宅防音対策の進捗状況等について【苫小牧市】

1 平成 29 年度の実績について

区分	助成申込・内定件数	工事实績件数
一般住宅	19	19
集合住宅	1	1
計	20	20

2 平成 30 年度の実施計画について

区分	予定件数
一般住宅	13
集合住宅	1
計	14

3 平成 30 年度の現地調査について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
一般住宅	0	2	3	2	5	0	8	20
集合住宅	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	2	3	2	5	0	8	20

※ 4月～7月は実施件数、8月以降は予定件数。

4 冬期施工の促進について

(1) 実施の理由

- ・現地調査等で実施時期を確認する際、冬期の工事に関して、「冬場の工事はやりたくない」、「良い時期にできれば、今すぐでなくてもよい」の意見が多い。
- ・一方で、工事の優先順位が低い方からは、「一日でも早く工事をして欲しい」といった切実な声あげられている。
- ・このことから、冬期の工事を少しでも実施できれば、工事全体の進捗を早めることができる。
- ・そのため、今年度より予算の範囲内において、冬期間でも工事を希望する方がいれば、受付順で工事を実施する制度を設け、事業の一層の円滑な進捗を図りたい。

(2) 施工の条件

- ・設計監理会社、施工会社の了解を得たもので、2月までに完了する工事であること。

(3) 対象工事

10月から2月までに施工・完了する防音建具機能復旧工事、新規住宅防音工事、住宅防音対策の補完工事、千歳市空港周辺生活環境等対策基金事業及び苫小牧市冷暖房機器設置事業を対象とする。

(例) 内窓やエアコンの設置、塗装等を要しない工事、屋内での工事など

(4) 募集方法

- ・ホームページ、回覧板で周知し、10月から1か月間募集する。
- ・希望者は、冬期施工申込書を（公財）新千歳空港周辺環境整備財団に提出する。

(5) その他

- ・当初予算の範囲内で実施（工事の繰越などで発生した予算残で対応）。そのため、予算残額によっては、工事ができない場合がある。
- ・工事着工の順位は、基本的に受付順とする。
- ・工事の希望は、単年度限りの取扱いとする（翌年度には繰越しない）。
- ・工事内容によっては、寒さ等により日常生活に支障がある。

住宅防音対策の進捗状況等について【千歳市】

1 平成29年度の実績について

区分	助成申込・内定件数	工事实績件数	翌年度件数 (H30)
一般住宅	148	127	21
(世帯数)	(191)	(170)	(21)
集合住宅	3	3	0
(世帯数)	(12)	(12)	(0)
計	151	130	21
(世帯数)	(203)	(182)	(21)

2 平成30年度の実施計画について

区分	H30 予算分	H29 繰越分	計
一般住宅	82	21	103
(世帯数)	(82)	(21)	(103)
集合住宅	12	0	12
(世帯数)	(87)	(0)	(87)
計	94	21	115
(世帯数)	(169)	(21)	(190)

3 平成30年度の現地調査について

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
一般住宅	9	25	24	25	40	0	42	165
集合住宅	16	11	11	6	8	0	8	60
計	25	36	35	31	48	0	50	225

※ 4月～7月は実施世帯数、8月以降は予定世帯数。

地域振興対策の進捗状況等について

(苫小牧市)

【事業の概要等】

事業名	進捗状況		備考
	H28～29年度	H30年度以降	
植 苗			
公営(道営)住宅の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30年度供用開始に向け整備(H30年度中の完成予定)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地権者交渉(H28.9～30.4) ・支障物件調査(H29.3～29.6) ・地盤調査(H29.7～30.2) ・基本・実施設計(H29.8～30.3) 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得(H30.7) ・造成・本体工事(H30.7～31.3) ・第2期実施設計(H30.8～31.2)
道の駅関連施設の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30年度供用開始に向け整備(H30年度末の完成予定)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・設計業務(H29.7～30.3) 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考2</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本体工事(H30.8～31.3)
冷暖房機器等の設置	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">住宅防音工事と合わせて実施</div> <ul style="list-style-type: none"> ・H28～29年度 18件(833戸) 		<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度(予定) 7件
住宅建設が可能となる 区域拡大の検討	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">植苗星ヶ丘地区の地区計画策定</div> <p>(H28.11.18苫小牧市において告示)</p>		
沼ノ端			
複合施設の整備 (児童センター、行政窓口等)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H30年度供用開始に向け整備(H30.9完成予定)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・調査・設計業務(H28.7～29.6) ・本体工事(H29.9～30.9) 		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考3</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本体工事(～H30.9)
文化交流施設の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">施設の在り方が決まり次第、基本・実施設計等に着手</div>		
勇 払			
総合福祉会館の整備	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H29.12 供用開始(H29.11工事完了)</div>		

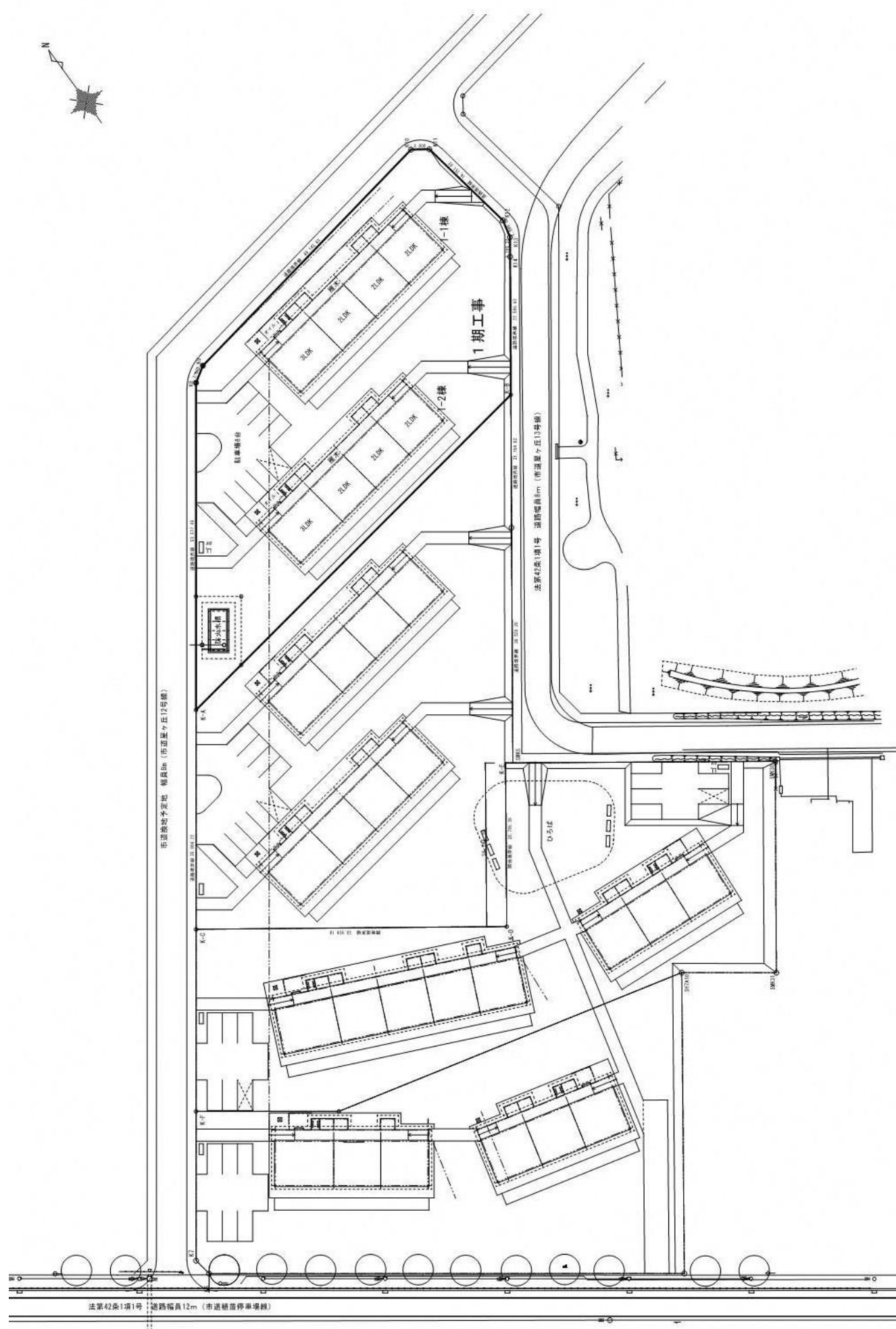
公営(道営)住宅の整備概要

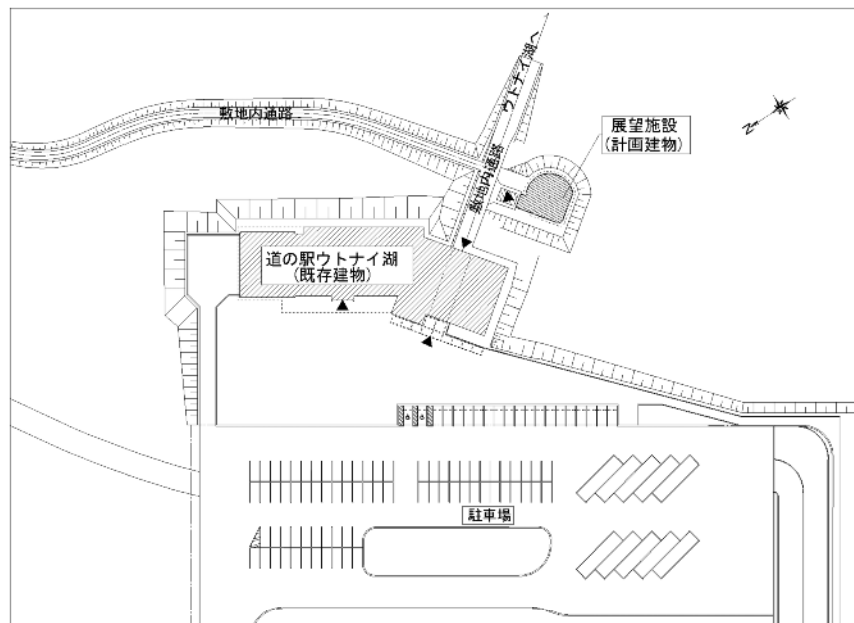
◎ 最短整備スケジュール

平成 30 年度	第 1 期住棟着工・竣工
平成 31 年度	第 2 期住棟着工・竣工
平成 32 年度	第 3 期住棟着工・竣工
平成 33 年度	第 4 期住棟着工・竣工

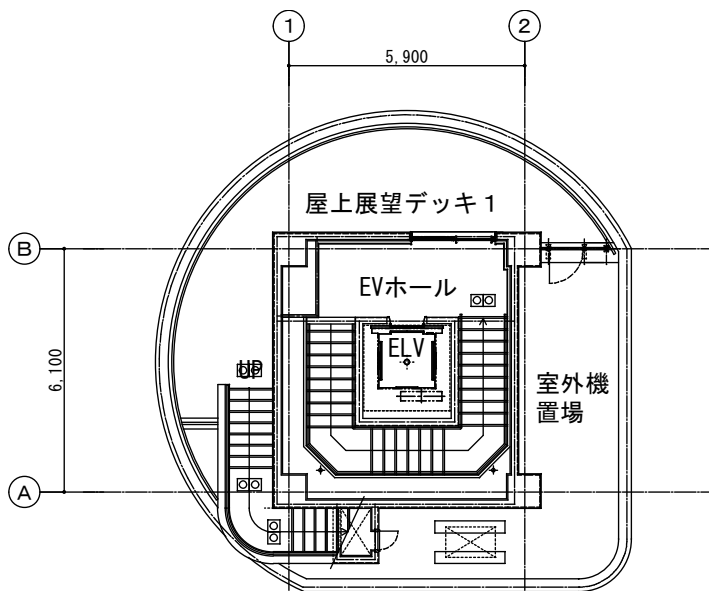
※入居状況及び国費の配分によっては変更する可能性があります。

◎ 配置図

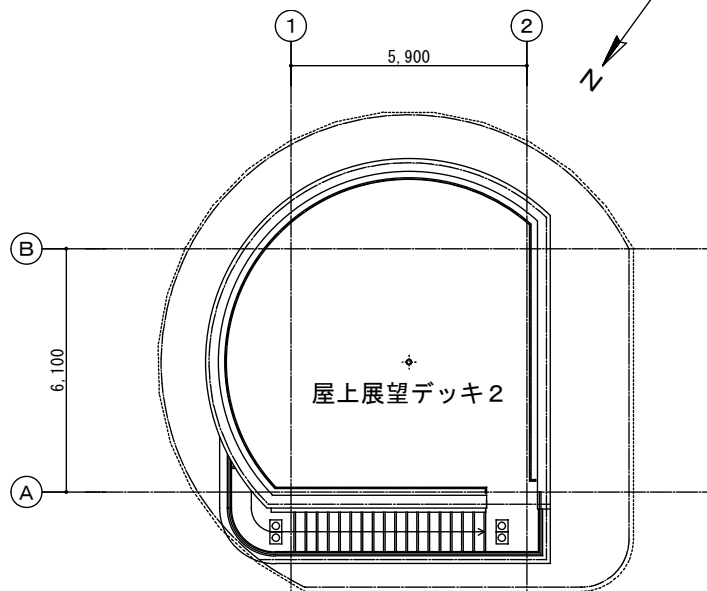




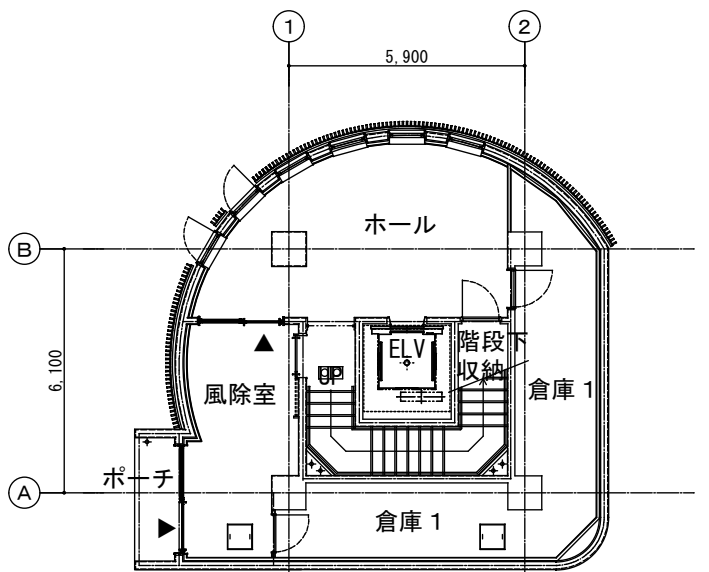
全体配置図



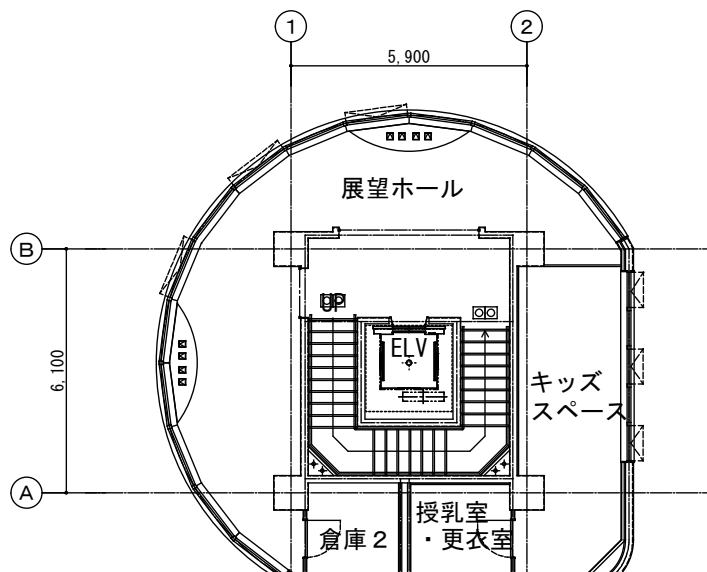
3階平面図



R階平面図



1階平面図



2階平面図

【道の駅関連施設

(ウトナイ交流センター展望施設) 完成予定図】

○ウトナイ湖側からみた風景



○駐車場側からみた風景



【沼ノ端複合施設 完成予定図】



新千歳空港周辺地域振興基金について

■基金概要

造成目標額	平成28年度末 造成済額	平成29年度 新規造成額	平成29年度末 造成済額
30億円	19億265万円	845万円	19億1,110万円

- ・道内で事業を展開する企業を中心に約60社に協力を要請。
- ・平成28～29年度で15社から総額7,240万円の寄附表明。
- ・そのうち平成29年度は8社から845万円の寄付金の納入。

【主な寄附企業】

(株)ニトリ	(株)JTB北海道
伊藤組土建(株)	(株)近畿日本ツーリスト北海道
(株)ツルハホールディングス	(株)日本旅行北海道
(株)アインホールディングス	(株)リクルート北海道じゃらん
(株)サツドラホールディングス	YKKAP(株)
(株)ラルズ	北海道中央バス(株)
(株)ローソン	(株)AIRDO

■基金造成に向けた取組

- ・昨年に引き続き、道内で事業を展開する企業を中心に協力を要請中。
- ・中でも直接的なメリットを受けている深夜便を運航しているエアラインに対して、協力を改めて要請。
- ・基金の確保に向け、経済界等と協議を続ける。

■ 平成29年度民航機Lden値

「新千歳空港の24時間運用に関する合意書」の確認事項に基づく、平成29年度の民航機Lden値の状況は次のとおりです。

(Lden値単位：dB)

区域	設置	測定局	24時間運用 対策区域	24時間 予測W	(参考) Lden換算値	平成29年度		平成28年度	
						年間Lden値	民航Lden値	年間Lden値	民航Lden値
千歳市	北海道	東郊	区域外	59		59	45	59	45
		梅ヶ丘	75～85W	75	62～70dB	59	58	59	57
		富丘	区域外	51		53	43	54	43
		稲穂	区域外	—		60	45	60	45
		根志越東	70～75W	70	57～62dB	56	56	56	54
		旭ヶ丘	75～85W	78	62～70dB	60	60	61	59
		駒里	補完 (<70W)	58	57dB未満	51	50	52	51
		あけぼの	準対 (<70W)	69	57dB未満	57	49	59	49
	弥生公園	75～85W	74	62～70dB	59	58	59	57	
	千歳市	青葉丘	区域外	66		65	47	66	50
		住吉	区域外	60		64	48	64	50
		東雲	区域外	56		62	45	63	46
		寿	75～85W	76	62～70dB	61	61	60	59
		北斗	区域外	51		53	38	53	39
		里美	区域外	45		43	32	46	38
		駒里東	補完 (<70W)	—	57dB未満	48	47	48	47
根志越南		補完 (<70W)	—	57dB未満	58	49	58	49	
苫小牧市	北海道	植苗	75～85W	74	62～70dB	58	58	56	56
		ウトナイ	補完 (<70W)	69	57dB未満	53	52	53	51
		美沢	補完 (<70W)	64	57dB未満	48	48	48	48
		湖畔	70～75W	73	57～62dB	57	58	56	57
		斉藤宅	補完 (<70W)	66	57dB未満	47	47	46	46
		植苗公園	70～75W	—	57～62dB	54	54	53	53
		勇払	区域外	64		50	50	50	50
		沼ノ端東雲	準対 (<70W)	—	57dB未満	53	53	53	52
		勇払東	区域外	—		50	51	50	51
	苫小牧市	琥珀荘	70～75W	70	57～62dB	53	53	52	51
		丹治沼	75～85W	78	62～70dB	58	58	58	58
		沼ノ端東	補完 (<70W)	68	57dB未満	54	54	54	54
		沼ノ端	補完 (<70W)	67	57dB未満	52	50	52	49
		植苗会館	70～75W	69	57～62dB	52	51	50	49

【参考】 Lden57dB=WECPNL値70、Lden62dB=WECPNL値75

○ 民航機Lden値の算出方法について

- ・新千歳空港周辺における航空機騒音の監視は、環境基準の評価を目的として、新千歳空港及び隣接する千歳飛行場を使用する航空機の騒音を測定することにより行っていることから、民航機の騒音だけを識別したり分離して把握することは困難である。
- ・そのため新千歳空港を離着陸する航空機の騒音を把握する方法として、千歳飛行場に係る自衛隊機（ジェット戦闘機）の離着陸のなかった日を民航機の航空機騒音を測定した日とみなし算出対象とし、対象日毎のLdenの全ての値をパワー平均し、これを民航機の年間Ldenとしている。
- ・平成29年度の集計対象日数は136日（約3分の1）である。（平成28年度：129日）

○ パワー平均値について

〈計算式〉

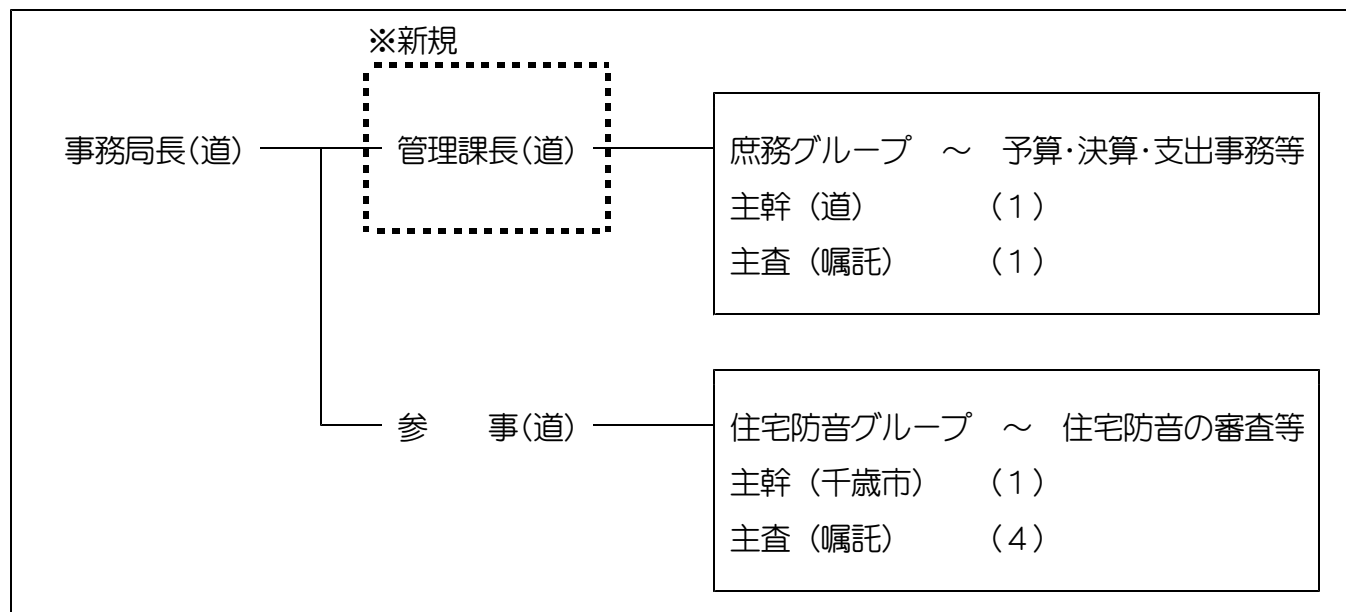
$$Lden = 10 \log_{10} \left(\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N 10^{Lden_i/10} \right)$$

- ・環境基準に係る航空機騒音の評価も、測定された1機毎の単発騒音暴露レベルから1日毎のLden値を算出し、1年間のその全ての値をパワー平均して行うこととしている。

(公財)新千歳空港周辺環境整備財団の新たな体制整備について

- 平成30年度より、道職員 1 名を新たに財団に派遣します。
- 2 年間の暫定措置とします。
(継続等が必要な場合は、その時点で改めて協議)
- 道から派遣する職員の増加に伴う人件費見合い分について、平成31年度分の運用益から支出させていただきます。
- これに伴い、平成23年 5 月27日に締結した「新千歳空港の24時間運用に伴う地域振興等対策の基金による助成事業に関する確認事項」について、[資料 5 - 2](#)のとおり新たな確認事項を取り交わします。

<新組織体制>



新千歳空港の24時間運用に伴う地域振興等対策の基金による助成事業に関する確認事項(案)

新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を構成する北海道、苫小牧市及び地区は、平成23年5月27日に締結した「新千歳空港の24時間運用に伴う地域振興等対策の基金による助成事業に関する確認事項」（以下「確認事項」という。）の変更について、次のとおり確認する。

記

確認事項の記の2の「3名以内」を「4名以内」に変更する。

この確認事項を証するため、本書を5通作成し、北海道、苫小牧市及び各地区が記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成 年 月 日

北海道

北海道総合政策部交通企画監

苫小牧市

苫小牧市総合政策部長

植苗地区代表

地域協議会委員代表

沼ノ端地区代表

地域協議会委員代表

勇払地区代表

地域協議会委員代表

新千歳空港の24時間運用に伴う地域振興等対策の基金による助成事業に関する確認事項

平成23年5月27日 合意内容	今回提案
<p>新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会を構成する北海道、苫小牧市及び地区は、平成6年4月21日に締結した「国際エアカーゴ基地形成のための新千歳空港の24時間運用に関する合意書」（以下「合意書」という。）及び「国際エアカーゴ基地形成のための新千歳空港の24時間運用に関する合意書の確認事項」（以下「合意書の確認事項」という。）に基づく地域振興等対策の基金による助成事業について、次のとおり合意する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 財源不足額への基金運用益の充当について 合意書の別記1の2の(1)及び合意書の確認事項の2の(4)に基づく千歳市及び苫小牧市の両地域に配分する基金運用益について、基金運用益発生年度において、財団法人新千歳空港周辺環境整備財団（以下「財団」という。）に派遣職員分人件費に係る財源不足額がある場合には、当該不足額に基金運用益を充当した後の額を翌年度の助成額とする。</p> <p>2 派遣職員分人件費に係る負担人数について 基金運用益から充当する派遣職員分人件費に係る財源不足額の負担人数については、北海道が財団に派遣する職員<u>3</u>名以内とする。</p> <p>3 基金運用益の充当開始時期について 基金運用益から派遣職員人件費に係る財源不足額への充当を開始する時期は、平成22年度分からとする。</p> <p>4 その他 財団が平成25年11月30日までに「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」に基づく公益財団法人に移行できないこととなった場合の取扱については、改めて協議する。</p>	<p>職員<u>4</u>名以内</p>

新千歳空港における最近の動向について

1 深夜・早朝時間帯における国内定期便

(H30年夏ダイヤ：平成30年3月25日(日)～平成30年10月27日(土))

航空会社	路線・運航時刻	運航日等	備考
J A L	羽 田 20:30 → 新千歳 22:00	毎 日	7～8月は5分遅着
	羽 田 21:00 → 新千歳 22:35	3/25～10/26の間、85便運航	3～6, 9～10月は5分早着
	新千歳 21:45 → 羽 田 23:30	3/25～10/26の間、85便運航	7～8月は5分遅発
A N A	新千歳 21:50 → 羽 田 23:30	毎 日	
	羽 田 20:40 → 新千歳 22:15	毎 日	8/9～24は10分遅発着
	関 西 20:20 → 新千歳 22:10	毎 日	
	羽 田 01:05 → 新千歳 02:45	3/25～10/27の火～土曜日	貨物便
	新千歳 01:50 → 羽 田 03:00	3/25～10/27の火～土曜日	貨物便
S K Y	羽 田 20:30 → 新千歳 22:05	毎 日	
	羽 田 21:00 → 新千歳 22:35	7/13～10/27の毎日(7/27, 31, 8/3除く)	新規運航便
	羽 田 21:30 → 新千歳 23:05	7/13～10/27の毎日	
	新千歳 00:10 → 羽 田 02:00	7/14～10/27の毎日	
	新千歳 01:10 → 羽 田 03:00	7/14～10/27の毎日(7/28, 8/1, 4除く)	新規運航便
A D O	仙 台 20:45 → 新千歳 22:00	毎 日	
	羽 田 21:00 → 新千歳 22:35	毎 日	
	羽 田 21:30 → 新千歳 23:10	3/25～10/26の間、40便運航	3月(4), 4月(11), 7月(6) 8月(9), 9月(3), 10月(7)
	新千歳 22:20 → 羽 田 23:55	3/25～10/12の間、18便運航	3月(4), 4月(11), 10月(3)
V N L	成 田 20:15 → 新千歳 22:05	毎 日	

(J A L : 日本航空、A N A : 全日本空輸、S K Y : スカイマーク、A D O : AIRDO、V N L : ヴェネリア)

2 深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便 (平成30年8月末現在)

国・方面		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インドネシア	ジャカルタ	1			
	デンパサール	1			
韓国	仁川(インチョン)	2			
	清州(チョンジュ)		7		
	務安(ムアン)		1 1	2 3	4 6
	済州(チジュ)			1 2	1 2
グアム	グアム	2	2		
フィリピン	マニラ				1
合計		6	2 0	3 5	5 9

道内空港運営の民間委託について

北海道内7空港特定運営事業等実施方針 (平成30年3月29日策定・公表)

本事業の概要

○ 事業期間

- ・ 30年間（＋不可抗力延長で最長35年間）

○ 事業方式

- ・ 運営権者は、国が管理する新千歳空港・稚内空港・釧路空港・函館空港、地方公共団体が管理する旭川空港・帯広空港・女満別空港の運営を実施（実施方針の策定・実施契約の締結は管理者毎に実施）
- ・ 運営権者は、着陸料その他の収入を設定・収受し、これらの収入により事業実施に要する費用を負担する（国管理4空港については原則すべての費用を運営権者が負担するが、地方管理3空港については公的負担を伴う「混合型」の制度設計とする）

○ 運営権者からの提案を求める事業（提案事業）

- ・ 航空ネットワーク・道内航空ネットワークの充実強化に関する事業
- ・ 北海道の広域観光の振興に関する事業
- ・ 地域との共生に関する事業

○ 運営権者の責任の履行確保に関する事項

- ・ 4管理者共通化の枠組みによりモニタリングを実施
- ・ 提案事項や要求水準を遵守しない事態が続いた場合に、4管理者全ての契約解除を念頭に対処できる包括的な仕組みや4管理者間協議の場を構築

○ 運営権対価等

- ・ 運営権対価一時金（ゼロ円を上回る金額を提案）と運営権対価分割金（24億円/年×30年間）を国に支払う
- ・ 地方管理3空港は、公的負担額の削減額について空港毎に提案を受ける

運営権者の募集・選定

※スケジュールは現時点での想定であり、今後、変更があり得る

○ 優先交渉権者選定手続

(H30.4～H31.7)

- ・ 有識者等で構成する審査委員会により審査（国が設置する委員会により7空港の提案内容を一体的に審査）
- ・ 応募者が一定の参加資格要件を満たしているかを確認の上、提案内容を2段階で審査
- ・ 道内7空港のマーケティング力の底上げ・航空ネットワークの充実を図り、地域と連携した広域観光の振興を含めた地域経済の活性化に資する者を総合的に判断のうえ優先交渉権者を選定
- ・ 優先交渉権者が設立したSPCと管理者毎に実施契約を締結、所要の引継ぎを実施

⇒ 上記の手続を経た上で、7空港一体での運営開始

【空港運営開始の想定スケジュール】

- H32.1.15 7空港一体のビル経営開始
- H32.6.1～ 滑走路等の運営移行
 - H32.6.1～ 新千歳空港
 - H32.10.1～ 旭川空港
 - H33.3.1～ 稚内・釧路・函館・帯広・女満別空港

北海道内7空港運営委託に向けた現時点での想定スケジュール

※スケジュールは現時点での想定であり、今後、変更があり得る

